【シナリオ】

『花嫁の父』

九谷　六口

登場人物

大前高康（53）

床屋（60）

○理髪店・全景

年季が入った床屋。

○同・中

大前高康（53）が、しかめっ面で順番を待っている。

床屋（60）が、大きな声を上げる。

床屋「次のお客さん、どうぞ」

大前がしかめっ面で立ち上がり鏡の前の椅子に坐る。

床屋「お客さん、初めてですね」

大前が面倒臭そうに頷く。

床屋「どのようにしますか」

大前「短くしてくれれば良いよ」

Copyright Mitani2005

　ぶっきら棒な言い方に床屋はムッとするが気を取り直して話す。
床屋「最近、こちらにお引っ越しでも……」
　数秒間の沈黙。
大前「いや、ずっと近所に住んでいる」
　床屋が怪訝そうな顔をする。
大前「床屋は、三十年振りだ」
床屋「そうですか。じゃー」
大前「女房だよ。どうせ二、三センチ、短くするだけだからね」
　ニコニコしていた床屋の顔が強張る。
床屋「どうして、また」
大前「結婚式があるんだよ。一応、ちゃんとしないとね」
　床屋の顔が綻ぶ。
床屋「それはお目出度い。息子さんですか」
大前「娘だ」
床屋「それは、それは。寂しくなりますね。でも、お孫さんが楽しみでしょう。一、二年も経てばお爺ちゃんですね」

Copyright Mitani2005

大前「三ヵ月後だ」
床屋「えっ！　三ヵ月後」
　床屋の怪訝な顔が明るくなる。
床屋「お目出度続き、羨ましいですね」
大前「君ねぇ、勝手な事を言うもんじゃないよ。親の身にもなってみなさい。いいかい、腹が大きな娘とバージンロードを歩くんだよ」
　床屋が寂しそうな顔をして話しだす。
床屋「私の娘は嫁いで四年。先日、摘出してね」
大前「摘出？」
床屋「ええ、子宮癌でして。命には別状ないと聞きましたので安心しましたが。もう孫は……。今は娘が元気でと願うだけです」
　大前が鏡に映る床屋の顔を見つめる。
　床屋も大前を見る。床屋は鋏を持ったまま動かない。二人の目が合う。二人の目に涙が溜まっていく。
床屋「床屋に来るのは三十年振りと言ってましたが」

Copyright Mitani2005

大前「三十年前は俺の結婚式だったんだよ」
床屋「そうですか。それは、それは」

○教会

大前が娘と腕を組み、バージンロードに立っている。音楽が流れる。大前の目に涙が溢れてくる。

（了）

二００四年十二月十五日

禁無断転載・複写

Copyright Mitani2005